

久留島武彦記念館

～令和5年9月21日(木) 訪問～ 【玖珠町】



久留島武彦記念館は、玖珠町出身の童話作家・口演童話家・教育者であり、「日本のアンデルセン」と呼ばれた久留島武彦氏に関する資料を展示・保存し、業績を伝える町立博物館として平成29年4月に開館しました。

当日は、久留島武彦氏の研究者でもある^{キム ソンヨン}金 成妍館長から、記念館の概要や企画展などの取組についてご説明をいただきました。また、こどもたちの郷土愛を醸成するため、副読本を町内の小学校に配布する取組や、同館を訪れた人のみならず、学校や高齢者サロンの場を通じて久留島武彦氏の功績を伝える、ボランティアガイドの方々の活動についてお聞きました。玖珠町の森中央小学校ではアンデルセンの故郷であるデンマークの学校とオンライン交流も実施しているそうです。

同館では、久留島武彦氏生誕150年となる令和6年に向け、特別企画展を予定しているとのこと、県もPRに協力いただきたいとの要望をお伺いしました。

久留島武彦氏がこどもたちに素晴らしい影響を与え、教育に大きな功績があったことを改めて理解できたことに感謝を申し上げるとともに、令和6年5月の日本童話祭や今後予定されている様々なイベントについて、県としても情報発信に努めていきたいとお伝えしました。

対 話 風 景



久留島武彦



「日本のアンデルセン」と呼ばれた久留島武彦は、明治・大正・昭和の三代にわたって、人が人として共に生きていく上で必要な教える楽しいお話にのせてこどもたちに語り聞かせた教育者です。

また、日本にボーイスカウトを紹介し、日本ボーイスカウトの基盤作りに尽力するとともに日本初のお伽芝居を開催するなど、日本の近代児童文化の基盤を築き上げたパイオニアといえます。

昭和25年、76歳の時に、これまでの口演童話の活動を記念して、玖珠町森にある旧久留島氏庭園内に童話碑が建立されました。同年5月5日、第1回の日本童話祭が開催され、現在まで続いています。



第1回日本童話祭の様子